

洛西シミズ病院専門研修プログラム（Ⅱ型）

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 洛西シミズ病院整形外科専門研修後の成果
3. 洛西シミズ病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専門医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了条件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師としての必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医はあらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の習得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期医診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション医学などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった偏りのない医療を提供する使命があります。

洛西シミズ病院は京都市西端に位置し、洛西ニュータウンに近接しています。洛西ニュータウンは近年高齢化の顕著な地域です。またシミズ病院グループは京都市西京区に3病院と1老健施設、亀岡市に1病院、京都府南丹地域から福知山市にも老健施設・特養施設・グループホームを各々運営しており、洛西シミズ病院はこれら4病院の整形外科センター的役割を担っています。病院や施設を含めると1000床を超える規模であり、整形外科年間手術件数は900件前後です。亀岡市にも病院があることで、医師不足である京都府南丹地域の整形外科医療も担っています。さらに洛西シミズ病院は全国有数の規模と設備を持つ100床の回復期リハビリテーション病棟を併設し、質の高いリハビリを提供しています。

このⅡ型プログラムでは、大阪医科大学と連携しながら、地域医療に貢献できるプライマリ・ケアから療養・介護を含む老人医療を担える、幅広い視野を持った整形外科医を育てることを目標とします。

2. 洛西シミズ病院整形外科専門研修後の成果

洛西シミズ病院整形外科専門研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と、高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技術を習得できるような幅広い臨床能力（知識・技術・態度）が身についた整形外科専門医となることが出来ます。また、地域医療を中心とした研修によって以下のコアコンピテンシーも習得出来ます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること

(プロフェッショナルリズム)。

- 3) 診療記録の適切な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を習得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を守ること。

3. 洛西シミズ病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

洛西シミズ病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野を持った整形外科医師」としています。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。その中でも京都府は、高齢化人口比率の高い地域であり、地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このプログラムでは、高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。

清仁会シミズ病院グループの洛西シミズ病院は京都市西端に位置し、洛西ニュータウンに近接しています。洛西ニュータウンは近年高齢化の顕著な地域です。またシミズ病院グループは京都市西京区に3病院と1老健施設、亀岡市に1病院、さらに以北の京都府南丹から福知山地域に老健施設・特養施設などを運営しています。洛西シミズ病院はこれら4病院の整形外科センター的役割を担い、ほとんどの手術は洛西シミズ病院で行います。亀岡市にも病院があることで、医師不足である京都府南丹地域の整形外科医療も担っています。

洛西シミズ病院は大阪医科大学整形外科・西宮協立脳神経外科病院整形外科と連携し、専門的な研修も出来るように配慮されています。

大阪医科大学は、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、小児整形外科、腫瘍、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設の西宮協立脳神経外科病院整形外科での研修を合わせると、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した外科医として診療が出来ることを目指します。

洛西シミズ病院整形外科専門研修プログラムは、専攻医の皆様に素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。また、京都府地域枠として地域医療に貢献しようという志をもった専攻医の皆様にも、医師不足地域での地域医療研修・義務と同時に多くの専門的な研修と研究の環境を提示できるプログラムとして環境を整えています。

4. 研修方法：参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP） <http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html> .

4.1 基本方針 整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、洛西シミズ病院および連携施設群において研修を行います。その中には、大阪医科大学のプログラムと連携した研修も含まれます。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4 年間で 48 単位を修得する修練プロセスで研修します。

①専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料

3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表(図1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。専攻医は1年目4月上旬の専門研修プログラム管理委員会主催のクルズス(1泊2日合宿)に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付 属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表(図1)を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付 属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を洛西シミズ病院および連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

大阪医科大学において開催される、専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「レジデントデイ」に参加します。研究指導は各施設の指導医が行います。また、大阪医科大学病院での12ヵ月間の研修においては、希望により研究のプロジェクトに参加しリサーチマインドを養うことを目標とします。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、

面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。洛西シミズ病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群の中核は、地域医療を担う地域中核病院となります。したがって、すべての専攻医は連携する大学病院での研修以外は、中小病院に勤務します。

⑨ サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。洛西シミズ病院はこれら全ての専門医研修病院に指定されています。日本リハビリテーション学会の認定研修施設でもあります。

本プログラムは大阪医科大学整形外科専門研修プログラムとも連携しているために、これらサブスペシャルティ領域の研修施設、スポーツ医学や人工関節手術に多くの実績のある施設も含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い、(9 月末および 3 月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた洛西シミズ病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

洛西シミズ病院に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年 4 回の定期委員会（6,9,12,3 月）を開催し、年度末 3 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻 医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

③プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法 専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること。

④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。

⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

洛西シミズ病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。京都府の医師不足地域の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【洛西シミズ病院週間予定】

	月	火	水	木	金	土
A.M.	外来・回診	外来	外来・回診	外来	外来・回診	当番 外来
P.M.	手術	手術	手術	手術		
X	線カンファ	専攻医				
		症例検討会				

*専攻医は、基幹病院研修期間において、「外傷」・「脊椎」・「関節」・「手」・「足」の各専門診グループをローテーションし、外来・手術を指示の元に担当する。

*月に一回、症例発表のクリニカルカンファランスを行う。

【本プログラムの連携施設群】

II 型基幹病院	洛西シミズ病院（京都市西京区）
地域医療研修病院	西宮協立脳神経外科病院（兵庫県西宮市）
	南大阪病院（大阪市住之江区）
	河端病院（京都市右京区）
	新河端病院（京都府長岡京市）
I 型基幹病院	大阪医科大学附属病院（大阪府高槻市）

・洛西シミズ病院

スタッフ紹介

石津恒彦	昭和 57 年卒	洛西シミズ病院院長	手外科、救急外傷（大阪医大卒）
奥田龍三	昭和 57 年卒	シミズ病院副院長	足の外科（大阪医大卒）

田村竜一 昭和 61 年卒 洛西シミズ病院副院長 関節外科（大阪医大卒）
矢津匡也 平成 4 年卒 洛西シミズ病院副院長 脊椎外科（大阪医大卒）
福西邦素 平成 5 年卒 亀岡シミズ病院整形外科部長 肩関節外科（大阪医大卒）
廣藤真司 平成 12 年卒 洛西シミズ病院整形外科部長 手外科（大阪医大卒）
万波 誠 平成 18 年卒 洛西シミズ病院整形外科医員 関節外科（近畿大卒）
専攻医 1～2 名

シミズ病院グループは京都市の西京区を中心として、4 病院、1 医院、2 老健施設、特別養護老人ホームなどを有し、全体で 1000 床を超える大きな組織です。

整形外科の特徴は大阪医大の常勤医 8 名で 4 病院のうち 3 病院（シミズ病院・洛西シミズ病院・亀岡シミズ病院）を運営していることにあります。3 病院は互いに車で約 10 分程度の距離に位置するため、洛西シミズ病院が整形外科センターの役割を受け持ち、ほとんどの手術は洛西シミズ病院で施行しています。

各常勤医師の専門が足の外科・関節外科・脊椎外科・手外科・関節リウマチ・救急外傷と整形外科のほぼすべての部位を網羅しており、各医師は種々の専門医を取得しています。このため高度な技術を要する整形外科治療・手術に幅広く対応が可能です。年間手術件数は 900 件前後ですが、増加傾向にあります。救急病院でもあり外傷が中心の病院と思われるが、半分以上は疾患の手術であり、外傷・疾患ともに十分な研修が可能です。

当院は以前より回復期リハビリテーション病棟を運営してきました。近年リハビリ需要の増加に伴い、平成 28 年 4 月洛西シミズ病院の敷地内に 100 床の専門病棟と全国有数の面積を持つリハビリセンターがオープンしました。

また手外科や脊椎脊髄病の専門医研修病院の指定を受けています。学会発表なども積極的に行っています。幅広い技術の取得、臨床研究にすぐれた病院と自負しており、整形外科研修の場としてふさわしいと考えます。

・西宮協立脳神経外科病院

スタッフ紹介

副院長・部長 瀧川直秀（平成 5 年大阪医科大学卒業）手肘の外科、関節リウマチ
部長 安井憲司（平成 11 年大阪医科大学卒業）肩の外科、手・肘の外科
医長 江城久子（平成 13 年大阪医科大学卒業）関節リウマチ、手・肘の外科
足立 周（平成 17 年大阪医科大学卒業）脊椎・脊髄外科

後期研修医 1～2 名

名誉院長(大阪医科大学名誉教授)

木下光雄（昭和 49 年大阪医科大学卒業）足の外科、関節リウマチ

西宮協立脳神経外科病院は大阪医科大学整形外科の関連病院の最も西に位置する病院で

す。病床数は164床で、1400件以上の手術を施行しておりますが、地域連携を重視してど
んどん転院しますので、整形外科の入院数は40-50人程度の急性期病院であります。当院
の特徴をまとめますと、下記のようになっております。

- ① 手術数は約1400件で新鮮外傷の割合は約50%。
- ② 各部位で内視鏡手術による最小侵襲手術を施行。
- ③ 手術は基本的に主治医執刀となっており、外傷を中心に多くの症例を経験できる。
- ④ 関節リウマチに対して、経口、点滴、皮下注製剤による化学療法を行っている。
- ⑤ 女性医師のための保育所がある。
- ⑥ 日本整形外科学会に加え日本手外科学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーショ
ン学会の認定研修施設になっている。

手術は医局員全員が外傷治療に携わり手、肘、肩、足、膝、股、脊椎の専門分野は各専門
家が主導しています。内視鏡手術は、指（ばね指）、手関節（手根管症候群、TFCC損傷）、
肘関節（離断性骨軟骨炎、上腕骨外上顆炎）、肩関節（腱板損傷など）、足関節（離断性骨
軟骨炎）、膝関節（ACLなど）、脊椎（MED, MEL）に使用しており、2台ある内視鏡を調整しな
がら手術を行っております。手術室は2009年10月に南館増設とともに新しくなりました。
整形外科は4室あるうち2室を（時に3室）ほぼ毎日朝から夕方まで使用できるいい環境にあ
ります。効率的に仕事ができるため、17時すぎには帰宅できることと、月曜日から金曜日
までの勤務で週休2日制のため勉強、研究に費やす時間も十分にとれると思います。当院で
よく学び、よく遊びの精神でともに頑張りましょう。

・大阪医科大学附属病院 整形外科

スタッフ紹介

教授	根尾昌志（昭和58年京都大学医学部卒業）、脊椎・脊髄外科
准教授	三幡輝久（平成6年和歌山県立医科大学卒業）、肩肘、スポーツ
診療准教授	馬場一郎（平成元年大阪医科大学卒業）、脊椎外科、骨軟部腫瘍
講師	横田淳司（平成3年大阪医科大学卒業）、上肢の外科、基礎研究
講師	中野敦之（平成7年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
講師	大槻周平（平成10年大阪医科大学卒業）、関節外科（軟骨再生など）
講師(准)	嶋 洋明（平成9年大阪医科大学卒業）、足の外科（創外固定など）
助教	大野克記（平成11年大阪医科大学卒業）、手・肘の外科
助教	岡本純典（平成11年大阪医科大学卒業）、関節外科（膝、股関節）
助教	長谷川彰彦（平成14年大阪医科大学卒業）、肩の外科（肩関節鏡）
助教	藤城高志（平成18年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
助教	中矢良治（平成18年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科
助教	羽山祥生（平成20年大阪医科大学卒業）、脊椎・脊髄外科

大阪医科大学は1927年(昭和2年)に創立され、2017年には創立90年を迎えた関西を代表する医療系大学の一つです。大学は大阪と京都のほぼ中央に位置し、大阪、京都へは電車なら15分でアクセスでき、阪急電鉄の高槻市駅前、JR高槻駅からも徒歩圏内と大変恵まれた立地条件にあります。大阪医科大学整形外科科学教室は1952年に開講、60年以上の歴史を持つ診療科です。整形外科は運動器を扱う守備範囲の広い科であり、サブスペシャリティは多岐にわたりますが、当教室では各専門領域の指導医が在籍し、大学病院としての高度な医療を提供しています。様々な症例を、上級医と一緒に経験していく中で、基礎的な知識や手技を自然と身につけることができます。また研究面においても各グループで独創性のある研究を行っており、研究成果を世界に向けて発信しています。【脊椎・脊髄外科領域】環軸関節亜脱臼などの上位頸椎疾患や胸椎後縦靭帯骨化症、脊髄腫瘍、高度な変形を伴う側弯症、後弯症など一般病院では対応の難しい高難度の手術を主に行っています。また側方侵入腰椎前方固定手技(OLIF)を用いて、低侵襲で合併症の軽減を目指した矯正固定手術を行っています。さらに骨粗鬆性圧迫骨折偽関節による遅発性神経障害に対しては、無除圧固定術を施行して良好な成績をおさめています。ナビゲーションシステム、手術用顕微鏡、運動誘発電位を用いた術中脊髄モニタリング、術中超音波検査、内視鏡手術などを導入し、安全性を向上させるとともに、効果的な手術を提供できるように努めています。

【上肢の領域：肩関節外科、肘関節外科、手外科】肩関節腱板広範囲断裂に対しては、独自の的方法による鏡視下上方関節包再建術を行い、良好な治療成績を得ています。またスポーツによる関節軟骨障害に対する骨軟骨移植術、麻痺に対する機能再建手術、先天性あるいは外傷性の関節変形や拘縮に対する矯正術や解離術、人工関節置換術などを行っています。肩、肘、手関節、手指関節に対する手術や手根管開放術には関節鏡、内視鏡による小侵襲手術を積極的に導入しています。

【股・膝関節外科】膝スポーツ損傷に対しては、鏡視下にACL靭帯再建術や半月板縫合術を行い、膝蓋骨不安定症にはオリジナルの三次元脛骨粗面移動術により良好な治療成績を得ています。変形性膝関節症に対しては進行期までは関節温存を第一に様々な種類の膝周囲骨きり術(HTOなど)で治療し、これらは積極的に学会、論文報告をしています。末期関節症には人工関節置換術(TKA)や再置換術(revision TKA)で対応し、股関節症に対しては前側方アプローチのセメント固定の人工股関節手術(THA)を行っています。

【足の外科】外反母趾に対しては近位中足骨回外骨切り術により、またその併存症に対しても独自の術式により良好な治療成績を得ています。足関節インピンジメント症候群などスポーツ損傷例に対しては早期復帰を目指し、積極的に鏡視下手術を行っています。また陳旧性アキレス腱断裂に対しては、自家腱を犠牲にしない癒痕組織を利用する手術を行っています。

【その他】重度の骨関節変形や脚長不等に対しては、創外固定器を用いた変形矯正術や仮骨延長による骨長調整術を行っています。骨軟部腫瘍領域や先天性内反足などの小児整形外科領域の難治性疾患に対しても高度な治療を行い、良好な成績を得ています。

本プログラムを構成する3研修連携病院は、多くの研修単位を取得可能な大型研修病院が大学の他に1施設あり、地域に根ざした医療研修が経験できるように配慮しています。また、関節・スポーツ・脊椎・小児・手外科などの専門研修も可能な特徴ある施設群であり、専攻医の希望に応じて、取得単位を勘案しながらローテーションする機会を提供します。また、連携するI型基幹病院である大阪医科大学附属病院での12ヵ月間の研修において、リサーチマインドを学び、一般病院で経験することの出来ない多くの症例を経験する機会を提供します。

【研修病院群と指導可能な研修領域】

医療機関	指導可能な研修領域										人数	
	脊	上	下	外	リウ	リハ	ス	地	小	腫	指導医	専攻医
洛西シミズ病院	●	●	●	●	●	●	●	●			4	2
大阪医科大学	●	●	●		●	●	●		●	●	12	2
西宮協立脳神経外科病院		●	●	●	●	●	●	●			3	2

脊：脊椎 上：上肢 下：下肢 外：外傷 リウ：リウマチ リハ：リハビリテーション
ス：スポーツ 地：地域医療 小：小児 腫：腫瘍

【研修病院ローテーション表例】

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
洛西シミズ病院	専攻医1	専攻医1	専攻医2	専攻医2
大阪医科大学	専攻医2		専攻医1	
西宮協立脳神経外科病院		専攻医2		専攻医1

*整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい

専攻医習得単位例（病院別）

専攻医1 1年目 脊2上1下2外3 リハ1ス1地1
2年目 脊1上2下1外2リウ1リハ1ス1地2
3年目 脊2上2下2 リウ1 ス1 小2腫2

4年目 上1下2外2 リウ1リハ1ス1地3

合計 脊5上6下7外7リウ3リハ3ス4地6小2腫2 45単位

専攻医2 1年目 脊2上2下2 リウ1 ス1 小2腫2

2年目 上1下2外2 リウ1リハ1ス1地3

3年目 脊2上1下2外3 リハ1ス1地1

4年目 脊1上2下1外2リウ1リハ1ス1地2

合計 脊5上6下7外7リウ3リハ3ス4地6小2腫2 45単位

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ型基幹施設である洛西シミズ病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために洛西シミズ病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② Ⅱ型基幹施設の役割

Ⅱ型基幹施設である洛西シミズ病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

洛西シミズ病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 洛西シミズ病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。洛西シミズ病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的评价を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされております。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。また、副統括責任者がその業務をサポートします。

1) 専門研修基幹施設である洛西シミズ病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

洛西シミズ病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】 各年次 2 名 合計 8 名

【応募方法】 応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

洛西シミズ病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<https://www.shimizu-hospital.or.jp/rakusai>

- 必要書類 : ① 申請書 (ダウンロード)
 ② 履歴書 (ダウンロード)
 ③ 医師免許証 (コピー)
 ④ 医師臨床研修修了登録証 (コピー)

【募集期間】 7 月末～9 月 3 0 日 (定員に満たない場合は第 2 回目の募集も予定します)

【問い合わせ先】 〒610 - 1106 京都市西京区大枝沓掛町 13-107

洛西シミズ病院 整形外科 担当：石津 恒彦 (研修プログラム統括責任者)

Tel : (075) 331-8778 Fax: (075) 332-5988

e-mail : tititi6780@yahoo.co.jp (整形外科研修プログラム専用アドレス)

【病院見学の申し込みについて】 洛西シミズ病院は随時、病院見学・プログラムガイダンス希望を受け付けております。下記ページの「問い合わせ」よりお申込み下さい。

担当：石津 恒彦 (後期研修担当)

洛西シミズ病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

[https:// www.shimizu-hospital.or.jp/rakusai](https://www.shimizu-hospital.or.jp/rakusai)